

1 教育課程について ～授業力の向上「学びたい授業」～

計 画	<p>①授業時間数の確保とともに、より豊かな教育の推進のための検討</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを育む授業の研究</p> <p>③全ての学年に道徳副教材を導入し、年間計画に基づき指導する。評価について検討を進める。</p> <p>④学力の向上に努めるため、配置された加配教員（数2、英1）を最大限活用し、数学科と英語科の習熟度別指導の実施率を50%とする。</p> <p>⑤支援教育、通常の学級に在籍する支援の必要な生徒への支援、通級指導の充実を図る。</p> <p>⑥目標に準拠した評価のあり方を研究し、生徒の意欲を高める指導と評価の一体化を進める。</p>
取 組	<p>①2学期末時点で授業実施時間数は年間標準時数の1年生が81.5%、2年生が81.4%、3年生が81.2%履修できており、昨年度より増加している。</p> <p>②今年度は、「主体的・対話的で深い学びを育む授業の研究」を研究主題とし、学習指導部が中心となり主体的・対話的な学習の一方法として「班学習」の研究の推進や、豊能町教育委員会の研究指定による自主的な研究授業の実施や外部講師を招聘した研修など、研究活動に取り組んできた。8月にはどの子もわかる授業の観点から、町巡回指導作業療法士の中西先生より生徒理解研修や、ICT機器の活用について大型モニター導入業者のインストラクターによる研修などを行った。研究授業は、7月(数学科と道徳)、9月(理科<食育>)、11月(技術科)を行った。11月には他校技術科教員と町教委指導主事を招いて研修会を行った。それらを踏まえて全教科が授業研究を行い、生徒の授業アンケートをもとに授業改善に取り組んだ。</p> <p>③計画通りに副教材を活用して道徳の時間に授業を行った。11月2日には保護者向けに道徳の時間の参観授業を行った。</p> <p>④数学と英語では、加配教員を活用して、生徒の実態に応じて習熟度別指導やTT授業(2人体制での授業)を行った。その実施率は数学では約7割、英語では約4割の値が見込まれる。</p> <p>⑤職員会議にて支援学級在籍の生徒についての情報を共有した。また、来年度入学・入級予定の6年生児童の様子について事前に校内にて情報共有を行い、全職員が分かれて小学校へ授業参観に行った。11月には、小学校6年生対象の体験入学を実施し、入学してくる児童について小学校と情報交換を行った。</p> <p>⑥通知票の改定を行った。再来年度より道徳の評価(文章表記)を行うことになる。今年度は、町道徳教育研究会に道徳教育推進教師が参加し小学校の評価について町として検討した。来年度は、中学校について検討する予定。</p>
評 価	<p>○生徒の評価 ※(H27年度、H28年度、H29年度)の肯定的評価の割合 「好きな授業がある」(← 88.2% 88.6%)「授業をわかりやすくしようとしている」(79.4% 89.5% 95.5%) 「少人数授業は分かりやすい」(85.3% 90.1% 93.4%)「朝の読書は落ち着いて読書のできる時間」(86.9% 84.5% 90.2%)であり、年次的に上昇しており、概ね良好な結果である。</p> <p>○保護者の評価 「支援教育の充実に努めている」(83.2% 83.7% 85.4%)「少人数授業、きめ細やかな指導、分かりやすい授業の工夫・研究」(77.8% 83.1% 81.9%)「放課後まなび舎教室・家庭学習計画表・補習などを通じて自学自習力の向上に努めている」(83.1% 80.7% 86.0%)「読書活動に力を入れている」(84.8% 82.8% 84.1%)であった。若干下がった項目があるが、上昇傾向にあり、概ね良好な結果である。</p> <p>○総括的 ・朝の読書の時間は引き続き取り組み、家庭での読書も含め、啓発を行っていく必要がある。本年度は、学校独自で「教員お薦めの本」ポスターを作成し、啓発に工夫を行った。 ・新しい学習指導要領を念頭に置き、校内の研究会は、主体的・対話的学びの一方法として班学習をその具体的手法として提示した。また、外部の研修会に参加し、教科指導力向上などを図っている。今後も継続して校内での研修の活性化を進めていく必要がある。 ・支援教育に対する考え方を整理し、校内体制の整備を進めるため、外部講師を招聘し校内全体研修会を実施した。継続して研修を行う必要がある。</p>

<p>学 校</p>	<p>・「先生は、授業をわかりやすくしようとしている」という質問に対する生徒の回答は、右図のように肯定的評価が飛躍的に伸びていることは大いに評価できる。肯定的評価は「当てはまる」「やや当てはまる」の割合を足した数字であるが、今後は「当てはまる」と回答した割合の数字に注目することも考えてはどうか。</p>	<p>授業をわかりやすくしようとしている 生徒 肯定的回答(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>肯定的回答(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>95.5</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>89.5</td> </tr> <tr> <td>平成27年度</td> <td>79.4</td> </tr> <tr> <td>平成26年度</td> <td>68.5</td> </tr> </tbody> </table>	年度	肯定的回答(%)	平成29年度	95.5	平成28年度	89.5	平成27年度	79.4	平成26年度	68.5
年度	肯定的回答(%)											
平成29年度	95.5											
平成28年度	89.5											
平成27年度	79.4											
平成26年度	68.5											
<p>協 議</p>	<p>・道徳の評価について、なにを基準にするか、説明が必要である。</p>											
<p>会</p>	<p>・道徳は日本の民度の基礎となるものなので、生徒が誇りと思いやりを持つことができるように指導願いたい。</p>											
<p>委</p>	<p>・授業時間の確保にはとても努力されている。</p>											
<p>員</p>	<p>・加配教員による習熟度別指導は、生徒の授業に対する関心度、理解度も非常によく、これをより充実させるには、府教委からの加配だけでなく、町独自の対応を町教委が中心になり進めていかなければ、学校だけの対応では限界があるのではないか。</p>											
<p>評</p>	<p>・保護者の意見にもあるが、他校と比べて内申が厳しすぎると思われる。このようなことに対して、他校と比較しうる資料があれば、協議会等で提示していただきたい。また、進学の実績は、生徒の学習の最終結果を判断する材料なので、協議会等においては公表していただきたい。</p>											
<p>価</p>	<p>・授業内容面において、生徒からの信頼を失うことのないよう、真摯に正確に対応されたい。また、生徒一人ひとりにできるだけ丁寧な対応をお願いしたい。</p>											
	<p>・成績評価が絶対評価に移行して以降、特に体育で5の評価をとることが至難であると承っている。生徒の身体能力の差はあるとしても、それを所与の前提とするならば、体育の授業は何を教える科目であるのかについて学校として検討する必要があると思う。成績評価にあたっての実技と知識の割合、実技における成績区分の基準について、学習指導要領に基づき、説明する必要があるのではないか。</p>											

2 生徒指導について ～寄り添う指導をとおして集団づくり「行きたい学校」～

計
画
①生徒の生活の原点を見据えた指導を行う。
②いじめを許さない集団づくりをめざす。
③学校での生活環境を整える。
④不登校0、いじめ早期発見、早期解決をめざす。
⑤部活動の指導では、明確な目標を設定し、指導を行う。
⑥生徒会役員と学校協議会やPTA役員との意見交流会を行い、課題解決に向けて学校総体として取り組む仕組みづくりを行う。
⑦生徒のコミュニケーション力や社会性を高める機会を設ける。

取
組
①毎朝の出欠状況を学年として把握する為に、生徒の出席確認を徹底した。
欠席が連続した生徒には家庭訪問で状況を把握し、家庭との適切な連携を図った。不登校傾向のある生徒については、個別の状況に応じた指導を行ってきた。毎週1回、各学年の担当者、こども支援コーディネーター、管理職で、それぞれの生徒の状況について、情報を共有する場を持ち、取り組みの方向性を整理しながら進めてきた。また、必要な場合には、専門職（スクールカウンセラー等）を招聘しケース会議を行った。ケース会議では現状と指導の方向性を共通確認しながら進めてきた。
②道徳、総合、学活などを通じて体験的取り組みを重視したり、自尊感情が高まるよう生徒が主体的に取り組めるよう行事を工夫したりした。また、学期ごとに生活アンケートを実施し、生徒の状況の把握をするよう努めた。
③全員清掃を基本的に毎日実施。学期に1回の大掃除。PTAの協力を得ながらクリーン作戦の実施。社会福祉協議会のボランティアや教職員による草刈り。地域ボランティアの方による中庭花壇整備。PTA学級委員による施設点検、教職員による全施設点検を7月と11月に実施した。
④生徒間のトラブルはすぐに学年団として対応したうえで保護者に状況を説明し、解決を図ってきた。不登校状態にある生徒宅へは、担任や関係する教員（こども支援コーディネーター、スクールカウンセラー）による家庭訪問を行ってきた。学年を超えた校内の全生徒の様子は、こども支援コーディネーターが把握し、必要に応じて学年・担任への支援を行った。また、教室に入りにくい状況になった生徒が学習したり、相談したりできるようにカウンセリングルームを活用した。他に学校外の適応指導教室との連携を行った。
⑤年度当初に2・3年生へクラブカードを返却し、保護者も含めて入部の意思確認を行ったうえで活動をスタートした。スタートに当たってはキャプテン会議を経て各クラブミーティングを行い、活動目標と方針を明確にした。また、とどろみの森学園など他校と合同チームを作り練習するなど活動の幅を広げた。
⑥9月に前期生徒会役員と学校協議会委員及びPTA役員との懇談会を持ち、生徒が自分の考えを発表し、そのことをもとに、学校関係者と生徒が意見交換する場をもった。また、その際に、学校生活上で不便を感じている設備について、生徒から聞き取りを行った。その取り組みを後期の生徒会が引き継ぎ、後期の活動に生かすように進めている。
⑦体育大会や合唱発表会を始め、3年生では修学旅行、高校オープンキャンパスへの参加、地域の就学前施設での保育体験学習、2年生では宿泊学習、職場体験学習、1年生では人権校外学習、福祉体験学習、進路学習を実施した。

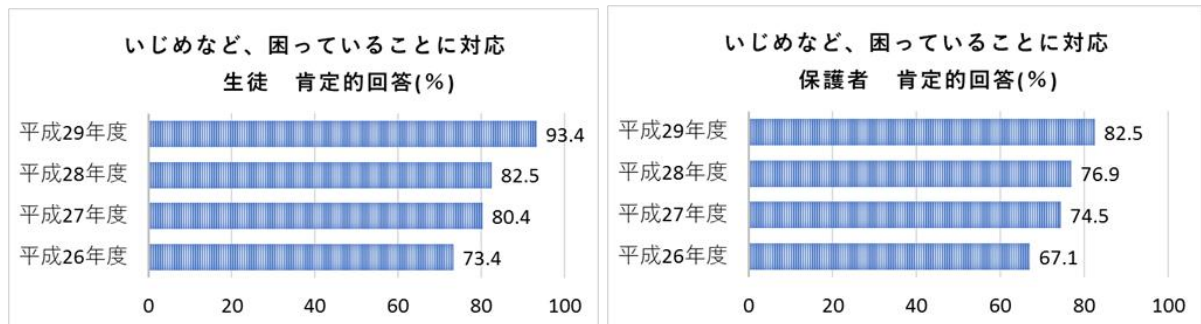
評
価
○生徒の評価 ※（H27年度、H28年度、**H29年度**）の肯定的評価の割合
「学校へ行くのが楽しい」（86.7% 86.4% **92.4%**）「基本的な生活習慣の確立に力を入れている」（89.1% 89.4% **95.8%**）「あいさつはできていると思う」（85.0% 86.7% **87.5%**）「命の大切さ、社会のルールの大切さ、人権の大切さについて学んだり考えたりするように指導している」（88.4% 86.4% **96.5%**）「いじめや悩みや困っていることに対応しようとしている」（80.4% 82.5% **93.4%**）「将来の夢や目標を持っている」（66.4% 71.7% **75.8%**）「人の役に立てる人間になりたい」（89.0% 91.8% **95.8%**）「先生は将来の夢や目標について考える機会をつくっている」（81.3% 77.0% **85.0%**）であり、概ね良好な結果である。
○保護者の評価
「学校へ行くのが楽しいと言っている」（83.8% 86.7% **86.5%**）「基本的な生活習慣の確立に力を入れている」（86.8% 89.4% **91.8%**）「命、社会のルール、人権の大切さについての指導を行っている」（79.0% 90.0% **87.5%**）「いじめなど困っていることに耳を傾け対応している」（74.5% 76.9% **82.5%**）であり、その他の項目も8割～9割が肯定的な回答であり、概ね良好な結果である。

○総括的

- ・「学校へ行くのが楽しい」と回答する生徒の割合が増加した。「命の大切さ、社会のルールの大切さ、人権の大切さについて学んだり考えたりするように指導している」や「いじめや悩みや困っていることに対応しようとしている」の肯定的評価が増えていることと関係があると考え。「寄り添う指導をとおして…」という取組みが少しずつ生徒の側にも伝わってきているのではと考える。しかし、個別の対応を求める生徒が増えてきている現状があるので、さらに対応に工夫し、学校としてできる範囲があるが、一人ひとりの課題に沿った指導を関係機関との連携も含めて追求していく必要がある。
- ・また、「生きる力」を育成するには、各行事や生徒会活動などで、生徒の意欲や興味を育てる必要がある。そのためには生徒が主体的に取り組むことができるような取組みを創造していかねばならない。

・学校の重点目標である「いじめを許さない集団作り」について、学校教育自己診断のアンケート結果は、下のおりこの4年間で、生徒・保護者の両方の評価が伸びていることは、大いに評価できる。一方で、全国学力・学習状況調査の生徒の調査結果では、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いに、肯定的に答えた生徒の割合は、全国93%に対し、吉川中学校は89%と少し低い状態にある。学校教育自己診断の数字に、甘んじることなく、さらなる取組みが必要である。

学
校
協
議
会
委
員
評
価



- ・生徒によりそう指導はよくなされていると思う。
- ・特性のある生徒とともに、学校で生活していくことは、一見大変なことである。しかし、お互いがどのように行動すれば共に心地よいのかを考えていくことは、生徒の成長を促し、社会に出たときにたいへん役立つと思われる。
- ・不登校生徒への対応は十分におこなわれており、非常に評価できる。地道な活動であるが今後も長い目で最良の方向に向かうことを期待している。また、問題となるような大きないじめはないようであるが、少しでもその兆候が見受けられたら先手先手の対応が必要である。
- ・体育大会において組体操、ダンスがなくなったということであるので、全校生徒が取り組めるあらたなプログラムに取り組む必要があると思う。
- ・職場体験、出前授業など積極的に取り組まれている。今後も継続していただきたい。吉川中学校校区には、元大学教授の方々も大変多くお住まいになっている。地域の方々との連携を深める意味でも、出前授業の講師に地域の方を積極的に招聘していただきたい。
- ・規則についてであるが、登校時の靴、靴下の色・長さ・模様の有無、夏季のデオドラント効果のある化粧水の利用、UV クリーム等の使用の可否など、なんのための規則か理解しかねるものがある。多様性のある人間の育成を挙げる以上、規則制定の趣旨が不明なものについては、改善されるのがよいと思われる。

3 学校の危機管理について - 報告・連絡・相談・点検の徹底

計 画	<p>①コンプライアンスの徹底を図る</p> <p>②学校の事故防止のため、日常の安全点検、報告・連絡・相談を行う。</p> <p>③学校情報の透明化を図り、積極的な発信に努める。</p> <p>④学校文書、公金、諸経費等は、複数の担当で管理・点検を行い、PTA や教育委員会の監査を受ける。</p> <p>⑤生徒・保護者・地域への学校ルールの指導と統一と徹底を図る。</p>
取 組	<p>①教育公務員としてのコンプライアンスについては、定期的に職員会議等で伝達した。特に、外部からの問い合わせや交通規則の遵守等について重点的に行った。金銭の扱いについては、必ず管理職が点検及び最終判断を行った。修学旅行等の取り扱い業者の選定には、複数の業者にプレゼンテーションを依頼し、選定委員の総意で決定した。</p> <p>②校内の安全点検は、年3回教員による全校一斉点検（4、7、12月）と日常の清掃時間での点検とを行い、危険箇所については、教育委員会と協議をし、修繕等を行った。学校や地域等で発生した事案については、学校の生徒指導連絡会を中心に情報共有を行い、必要な場合は町教委や豊能警察と連携し対応を行った。学期ごとに避難訓練を実施した。</p> <p>③「学校だより」「学年だより」「進路通信」「保健だより」「図書だより」「給食だより」などを発行した。学校だよりは、個人情報に注意し、学校ホームページでも閲覧できるようにしている。</p> <p>④学校文書、公金、諸経費については、毎年、町教育委員会に監査を受けている。また、2月には町監査委員から監査を受けている。また、保護者からの徴収金については、3月にPTA 会長から監査を受ける予定である。</p> <p>⑤生徒指導関係のルールについては、校内教員用の生徒指導マニュアルを毎年作成し、教員間で指導の相違が無いように共通確認の文書としている。防犯教室と薬物乱用防止教室を豊能警察の協力で実施した。避難訓練を年間3回実施した。3小学校区の青少年育成協議会に担当が出席し、中学校のようすなどの情報共有を図った。</p>
評 価	<p>○生徒の評価 ※（H27年度、H28年度、H29年度）の肯定的評価の割合 「学校は『学校だより』等通じて情報を発信している」（90.0% 85.5% 94.6%）「『学校だより』等を読んでいる」（55.0% 55.0% 66.7%）「給食は適切に実施されている」（21.5% 25.7% 43.9%）であった。全校生に話をする機会があるときには「学校だより」の内容を生徒にも伝えるように心がけた。</p> <p>○保護者の評価 「学校は教育方針や活動を分かりやすく伝えている」（81.0% 83.9% 87.5%）「学校は情報発信や連絡・情報提供を行っている」（89.5% 91.8% 94.2%）「子どもを通じて情報は保護者に届いている」（76.9% 78.3% 76.0%）「給食は適切に実施されている」（17.4% 44.1% 43.9%）「施設・設備の安全管理を適切に行っている」（81.3% 78.2% 79.9%）「生徒の健康管理に努めようとしている」（81.7% 87.3% 87.1%）であった。学校から保護者への情報発信は大切と考え、学校の取り組みを伝えられるようにと考えているが、施設・設備の老朽化への対応については、教育委員会に調査・修繕を依頼しているが、雨漏りなどについては、改善していないことも多く、この結果となっていると考える。</p> <p>○総括的 給食に対する満足度の低さは大きな課題である。抜本的なことは、学校では取り組めないが、学校としては、食育の推進に重点をおいて取り組んでいる。今年度は、小学校6年生向けの試食会を行った。また、生徒会の意見を直接委託業者の栄養士の方に質問する機会を設定した。今後も、給食が適切な食育の場となるよう努めていく必要がある。 今年度は、体育大会において入場制限を行ったが、さまざまな関係者への配慮が欠けておりご迷惑をかけることとなった。危機管理については、さまざまな視点で充分検討することの大切さを認識した。</p>

<p>学 校 協 議 会 委 員 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民などの体育祭の見学について、基準を設けて実施される必要がある。 ・施設の老朽化や学習機材の不十分さについては、これらはいずれも生徒の学習権を享受することを妨げている要因なので、今後も重要事項として学校をあげて行政にその改善を求める必要がある。雨漏りのする体育館、不衛生なトイレなど、生徒からすれば、大人は自分たちに制服指導などを行うものの、生徒のために十分な教育環境を整えない身勝手な存在として映る。行政の問題とはいえ、吉川校区の地域住民にも周知してもらうためにも、体育館やトイレの状況を地域住民にもわかるように発信してほしい。 ・校舎内数か所に監視カメラを設置し、突発的な事態に正確な情報を得て、即応体制が取れるようにすればよいのではないか。夜間の侵入者に対しても非常に効果的である。 ・1年生の残食が少ないので、2年・3年と続くようにすれば、次年度以降の新入生にも波及するのではないか。 ・給食に対する満足度の低さは改善したとはいえ、課題は大きい。しかしながら、生徒会の取り組みとして、給食を作っている工場の見学や委託業者の栄養士に質問をする機会を設けるなど、業者に直接働きかける取り組みは素晴らしい。町教育委員会と連携しつつ、さらに改善をはかってほしい。 ・大阪府の中学校給食の目的は戦後の学校給食の目的と似ている。家庭の事情でしっかり食べさせてもらっていない子供たちに少しでも栄養をつけるということであるが、小学校で理想的な学校給食環境で育った豊能地区の子供たちには、いまの業者給食はギャップがありすぎる。業者の方に小学校の給食現場の見学にきてもらい、小学生給食はどうだったか、そのつながりとしての中学校給食を考えてもらってはどうか？ ・弁当と給食を選べないだろうか？また、しっかり食べる子は勉強も活動もできる、という大阪府の目的にそうならば、給食で足りない子はおにぎりを持たせるのを許可してはどうだろうか？ ・テスト範囲などは授業の進み具合で、その都度微調整が必要であるが、定期テストの時間割など、最初から分かっているものについては、早くから情報発信するなど、昔の慣習にとらわれることなく改善していくべきである。③に掲げられているように、学校情報の透明化をさらに図る必要がある。 ・学校ルールの指導と統一は、小中一貫教育とも関連することから、小学校との連携を図るとより効果的であると思われる。
--	--

4 本校の将来像と信頼される学校づくりについて - 生徒の意欲と自主的行動力を育てる	
計 画	<p>①授業参観と授業公開週間を実施する。</p> <p>②学校教育活動に地域等のボランティアとPTAの支援を積極的に活用して、学力向上や学習の充実、さらには部活動の充実などに取り組む。</p> <p>③学校の小規模化に伴い、他校との交流など、教育の充実のための学校運営のあり方を検討する。</p> <p>④小中一貫教育推進を積極的に行う。</p> <p>⑤学校協議会では、学校が保護者や地域住民等の信頼にこたえ、家庭や地域と連携・協力し、一体となって生徒たちの健やかな成長を図るために、様々な視点の幅広い意見を求めるとともに、学校関係者評価に取り組む。</p>
取 組	<p>①4月22日、6月2日に授業参観、11月1日・6日に公開授業、11月2日に道徳の公開授業、11月1日～17日に生徒作品展を設けた。 学年懇談会を各学年1回実施した。(3年生は6月5日に修学旅行報告、2年生は11月2日に職場体験学習の報告、1年生は11月2日に人権校外学習の報告。)</p> <p>②地域の方に協力をいただき、放課後まなび舎学習を実施し、西公民館で実施されている公民館まなび舎への参加も推奨した。また、3年生では近隣の高校教員による出前授業を実施した。クラブ活動では、野球部、ソフトボール部、卓球部での外部コーチによる指導を実施した。将来への指針としては、社会で働くことを目指して、1年生では職場の方からの聞き取り学習、2年生では職場体験学習、子どもを育てるという視点から3年生では近隣の保育所幼稚園での保育体験学習を実施した。地域への関わりを体験させるために「ふれあいのつどい」開催の事務局を主管し、生徒会が小学校の児童会と連携した取り組みをした。</p> <p>③生徒数の減少に伴い、希望の少なかったサッカー部と家庭科部を来年度の夏で廃部とする予定。しかし、個人で参加できる剣道、柔道、水泳については、中学校体育連盟の大会に出場ができるよう学校として対応した。</p> <p>④小中一貫教育の推進については、町教委主催の小中一貫教育推進会議へ担当者が毎回参加し、12月には合同研修会に参加した。小学校の専科指導の充実のために本校に配置された加配教員が、年間を通じて校区の全小学校で理科の授業を実施した。また、こども支援コーディネーターが小学校教員と連携し、中学校区内のケース会議へ出席し情報交換をするなど生徒指導面での連携を図った。また、今年度初めて、中学校給食の試食会を中学校において小学校6年生を対象に行い、同時に中学校での理科・英語の授業を受けた。</p> <p>⑤年間3回の学校協議会を開催し、学校の情報を伝え、ご意見を頂いた。また、9月には学校協議会委員とPTA役員による生徒会役員との懇談会を実施し、直接、生徒会役員へアドバイスをいただくことができた。その結果を後期の生徒会役員が引き継ぎ、中学校給食については工場見学を行い、生徒の意見を伝えることを行った。その懇談会の内容は、教育委員会に報告をした。</p>
評 価	<p>○生徒の評価 ※(H27年度、H28年度、H29年度)の肯定的評価の割合 「学校行事はみんなが楽しく、そしてがんばって取り組めるようになっていく」(79.1% 85.2% 95.8%) であり、大きく上昇し、生徒が行事に前向きに取り組んだ様子が伺える。</p> <p>○保護者の評価 「学校は合唱発表会、体育大会などの学校・学年行事等に生徒が前向きに取り組むよう指導している。」(90.4% 90.1% 92.9%) 「家庭では子どもとふれあう時間をつくろうとしている」(94.6% 97.7% 95.6%) 「家庭では進路について相談することを大切にしている。」(92.2% 94.1% 95.9%) 「地域人材の活用に努めている」(77.9% 89.0% 94.9%)であった。</p> <p>本校では、保護者の教育に関する関心が高く、家庭で生徒との関わりをととても大切にされている様子が結果から伺うことができる。学校行事への関心・期待も高く、生徒への声かけなど、家庭との連携による教育効果は大きいと感じる。家庭の教育力の高さは、本校の財産と考える。</p> <p>○総括的 小規模化していく学校の特長を生かした教育の推進がこれから大切と考える。今年度は、生徒会や学</p>

	<p>校行事において生徒が意欲を持って主体的に取り組むことを大切に進めてきた。体育大会では、応援団など上級生が下級生の面倒を見る縦割りのつながりや、合唱発表会では、他学年の取組みを全校生で聴きあうことを大切にした。生徒会が企画した70周年行事も、1年生から3年生までが楽しめるものとの考えで生徒会で検討された。学校行事を通じて生徒同士が切磋琢磨し、コミュニケーション力を高めていけるように、さらなる取組みを進めたいと考えている。</p>
<p>学 校 協 議 会 委 員 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力、体力、知力、協力などについては、よく効果をあげている。 ・生徒アンケート「将来の夢や目的」の⑫⑮の2項目がやや弱いところがある。各教科の中で、夢につながりそうな人物、システム、事業、学問成果、芸術、技術、文化、などについて、映像など簡単に心に残りやすい手段で授業の中に差し込んでどうか？ ・地区内の生徒数が減少するため、組分けしても、おなじような顔ぶれとなってしまうのは致し方ないが、それだけに人間関係が閉鎖的・固定化しないように工夫する必要がある。他校との積極的な交流を図っていくことも必要。 ・職場体験や出前授業については今後も継続していただきたい。 ・吉川中学校の進学実績については、説明されたい。 ・喫煙や言葉使いについては生徒の模範となるように努めていただきたい。 ・吉川中学校のブランドは何か。どこに特色を持つかを明確にしていく必要があると思う。 ・「学校の将来像と信頼される学校づくり—生徒の意欲と自主的行動力を育てる—」という目標のとおり、中規模校ではない都会に近いベッドタウンとしての小規模校の教育を根本から作り直す時が来ている。今までの良い面の上に立ちながら、生徒の意欲が一層高まるような、さらにわくわくするような授業づくり、行事づくりを期待する。 ・校舎の老朽化による不都合箇所が多々あるが、一番問題点は時代遅れのトイレの不都合ではないか。洋式・暖房・ウォシュレットが当たり前の環境で育ってきた生徒が、和式トイレを使用するには非常に抵抗感があると思われる。町内施設の中で学校のトイレが群を抜いて古くて汚い。小中一貫校の問題もあるが、町当局が現状を把握して早急に解決しなければいけない問題である。